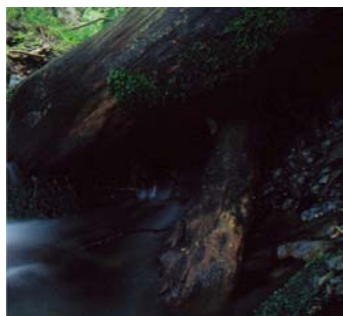
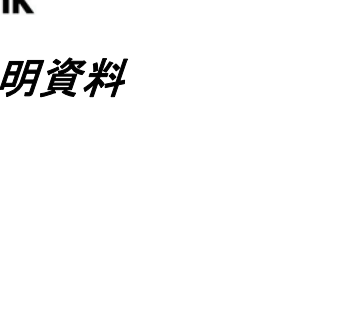
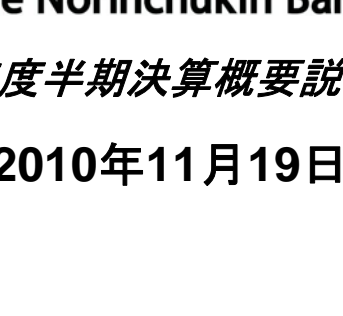
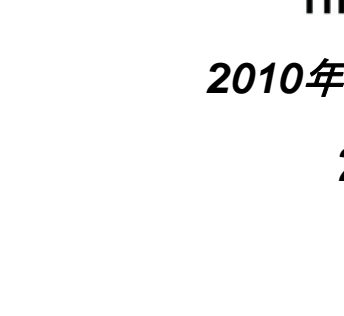


農林中央金庫

The Norinchukin Bank

2010年度半期決算概要説明資料

2010年11月19日



～高水準の自己資本比率を維持し、目標経常利益水準を確保～

■ 経常利益1,039億円, 当期純利益834億円

- 資金収支を着実に計上する中、与信関係費用は低減。通期での目標経常利益水準(2009年度から2012年度は500～1,000億円)達成に向け順調な推移。

■ 自己資本比率21.85%, Tier I比率16.09%(速報値)

- 自己資本比率, Tier I比率は各々2010年3月末対比2.59%, 2.21%上昇。引き続き堅固な自己資本基盤を維持。

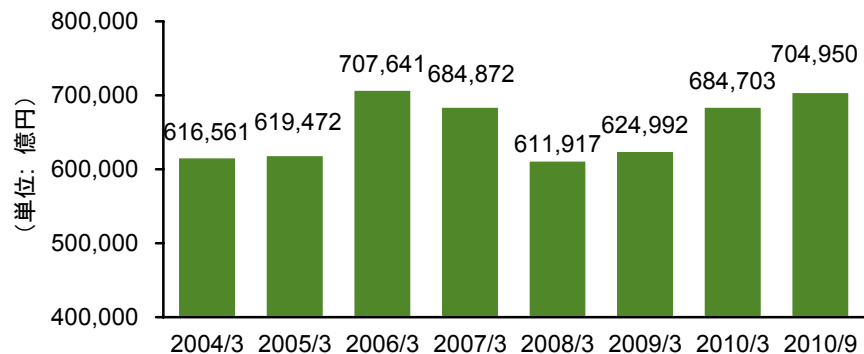
■ 有価証券等の評価差額は▲3,122億円(2010年3月末対比2,935億円の改善)

- 金利低下により有価証券等の評価差額は着実に改善。

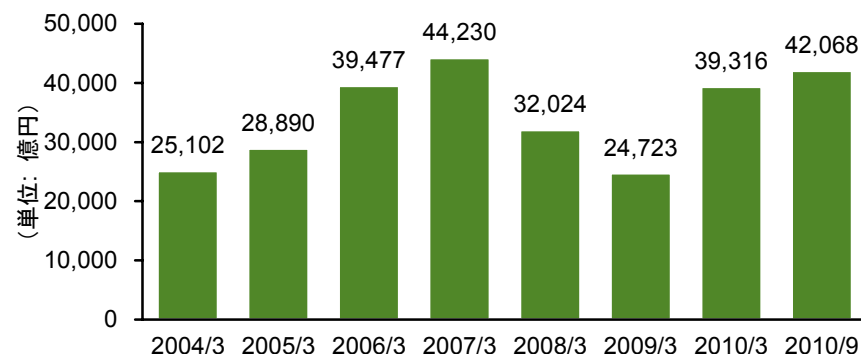
～改善基調を継続～

- 安定した利益計上と有価証券の評価損益改善により総資産・純資産額は増加。

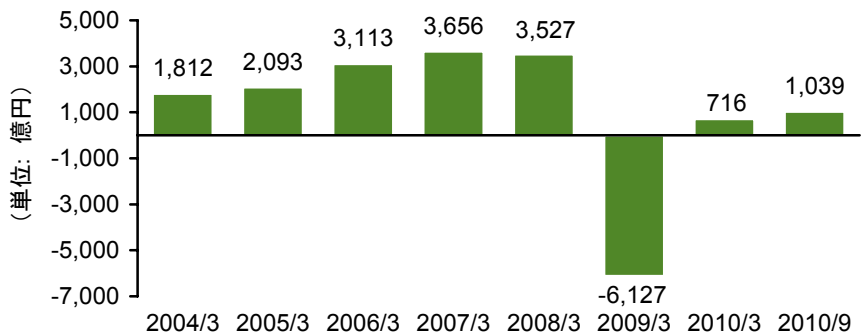
総資産額



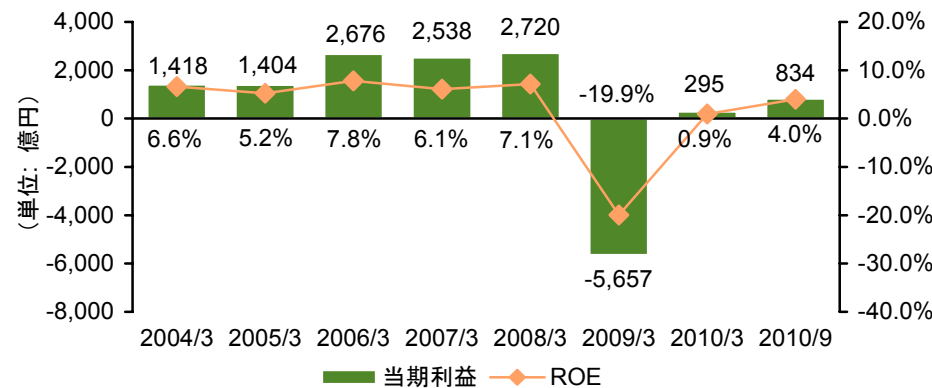
純資産額



経常利益



ROEおよび当期利益



注: 2010年9月末現在, 単体ベース。2006年3月期以前の純資産額のデータは資本の部合計ベース
出所: 農林中央金庫

～ 2010年度半期の経常利益は1,039億円～

■ 通期での目標経常利益水準(500～1,000億円)達成に向け順調な推移。

(単位:億円)	2009年度 半期	2010年度 半期	増減額	増減率
1 経常収益	7,340	5,704	-1,636	-22.2%
2 うち資金運用収益	3,808	3,617	-190	-5.0%
3 うちその他業務収益	1,744	782	-961	-55.1%
4 うちその他経常収益	1,727	1,223	-503	-29.1%
5 経常費用	6,220	4,665	-1,555	-25.0%
6 うち資金調達費用	3,556	2,816	-740	-20.8%
7 うちその他業務費用	842	960	117	13.9%
8 うち事業管理費	564	506	-58	-10.3%
9 うちその他経常費用	1,189	328	-860	-72.3%
10 経常利益	1,120	1,039	-81	-7.2%
11 特別利益	8	130	121	1,427.2%
12 特別損失	9	2	-7	-76.3%
13 税引前半期純利益	1,119	1,167	47	4.2%
14 半期純利益	618	834	215	34.8%

■ 経常収益は、金利低下や有価証券売却益の減少等により減収

➢ 有価証券売却益575億円(前年同期比▲893億円)

■ 経常費用は、金利低下による調達コストの低下と経済環境の落ち着きを反映した与信コストの低減により減少。

➢ 有価証券償却682億円(前年同期比+259億円)

➢ 有価証券売却損310億円(前年同期比+93億円)

➢ 与信関係費用は119億円の戻入益計上

(うち特別利益の貸倒引当金戻入124億円, 前年同期は1,065億円の費用計上)

■ 経常利益は、ほぼ横ばい

■ 半期純利益は特別利益での貸倒引当金の戻りがあり、増益

～ 運用・調達利回りとも低下～

■ 金利低下の影響等により、運用・調達利回りとも低下し、利回り差はほぼ横ばいの水準

	平均残高(単位:億円)			歩合(単位:%)		
	2009年度 半期	2010年度 半期	増減額	2009年度 半期	2010年度 半期	増減幅
1 (運用調達利回り差)				0.32	0.29	-0.02
2 (運用)	683,584	692,935	9,351	1.95	1.45	-0.50
3 うち貸出金	104,770	128,475	23,705	0.96	0.68	-0.27
4 うち有価証券等	458,525	433,515	-25,010	2.59	2.01	-0.58
5 円貨建有価証券	154,597	151,323	-3,273	1.62	1.18	-0.44
6 外貨建有価証券	303,928	282,191	-21,736	3.09	2.46	-0.63
7 うち特定取引資産	95	38	-57	-12.94	12.57	25.51
8 うち短期運用資産等	103,387	121,510	18,122	0.20	0.12	-0.07
9 (調達)	683,584	692,935	9,351	1.62	1.15	-0.47
10 うち信連等調達	370,961	392,254	21,293	1.07	0.86	-0.20
11 うち農林債	53,377	55,997	2,620	1.23	1.22	-0.00
12 うち市場・対顧調達	196,527	181,392	-15,134	0.98	0.73	-0.24
13 うち円貨市場調達	12,276	11,235	-1,040	0.22	0.18	-0.03
14 うち外貨市場調達	157,162	140,507	-16,654	0.64	0.34	-0.30

■ 利回り差は、運用利回り・調達利回りともに低下したことにより、ほぼ横ばい(前年同期比▲0.02%)。

■ 運用利回りは、金利低下と有価証券売却益の減少により、前年同期比▲0.50%

■ 調達利回りは、内外短期金利の低下等により、前年同期比▲0.47%

注:2010年9月末現在、単体ベース。有価証券等は、金銭の信託、買入金銭債権を含みTBを除く。
出所:農林中央金庫

～ 堅実なポートフォリオ運営～

- 総資産は約2兆円増加, 純資産は約3千億円増加

(単位: 億円)	2009年度 年度末	2010年度 半期末	増減額	増減率
(資産の部)				
1 貸出金	130,380	123,903	-6,476	-4.9%
2 有価証券	440,137	460,605	20,468	4.6%
3 金銭の信託	65,556	79,981	14,425	22.0%
4 現金預け金	21,803	10,114	-11,689	-53.6%
5 その他	26,825	30,345	3,520	13.1%
6 資産の部合計	684,703	704,950	20,246	2.9%
(負債の部)				
7 預金	391,087	395,657	4,569	1.1%
8 譲渡性預金	7,027	6,723	-304	-4.3%
9 農林債	56,117	55,762	-355	-0.6%
10 借入金	22,844	20,108	-2,735	-11.9%
11 その他	168,310	184,630	16,320	9.6%
12 負債の部合計	645,387	662,882	17,495	2.7%
(純資産の部)				
13 資本金	34,259	34,259	-	-
14 資本剰余金	250	250	-	-
15 利益剰余金	8,185	9,019	834	10.1%
16 その他	-3,377	-1,460	1,917	-
17 純資産の部合計	39,316	42,068	2,751	6.9%

- 資産の部は, 中短期の債券等の積上げによる有価証券・金銭の信託の増加により前年度末比+2兆246億円
- 貸出金は, 政府向け貸出を主因に減少

- 負債の部は, 会員からの預金, その他の受託金の増加により, 前年度末比+1兆7,495億円

- 純資産は, 半期純利益の積上げ, 有価証券評価差額金の改善により, 前年度末比+2,751億円

～有価証券等の評価損は改善～

- 有価証券等の評価差額は3,122億円の評価損(2010年3月末対比2,935億円の改善)

(評価差額 単位: 億円)	2009年度 年度末	2010年度 半期末	増減額
【その他有価証券】			
1 株式	911	529	-381
2 債券	-29	118	147
3 国債	-4	134	139
4 地方債	0	0	0
5 社債	-24	-16	8
6 その他	-6,411	-4,440	1,970
7 外国債券	-453	508	961
8 外国株式	-29	-40	-11
9 その他	-5,929	-4,909	1,020
10 うち投資信託	-5,794	-4,818	976
11 小計 ①	-5,529	-3,793	1,736
【その他の金銭の信託】			
12 その他の金銭の信託 ②	1,286	1,695	408
【保有目的を変更した有価証券】			
13 その他有価証券から満期保有目的の債券へ 変更したもの ③	-1,814	-1,025	789
14 合計(①+②+③)	-6,058	-3,122	2,935

- 日本株を中心に株価が下落し、株式の評価差額は減少したが、グローバルな長期金利の低下により、外国債券、投資信託、金銭の信託の評価差額が増加し、前年度末比2,935億円の改善。

注 満期保有目的の債券の貸借対照表計上額と時価との差額は3,797億円(プラス)。
2010年9月末現在、単体ベース
出所: 農林中央金庫

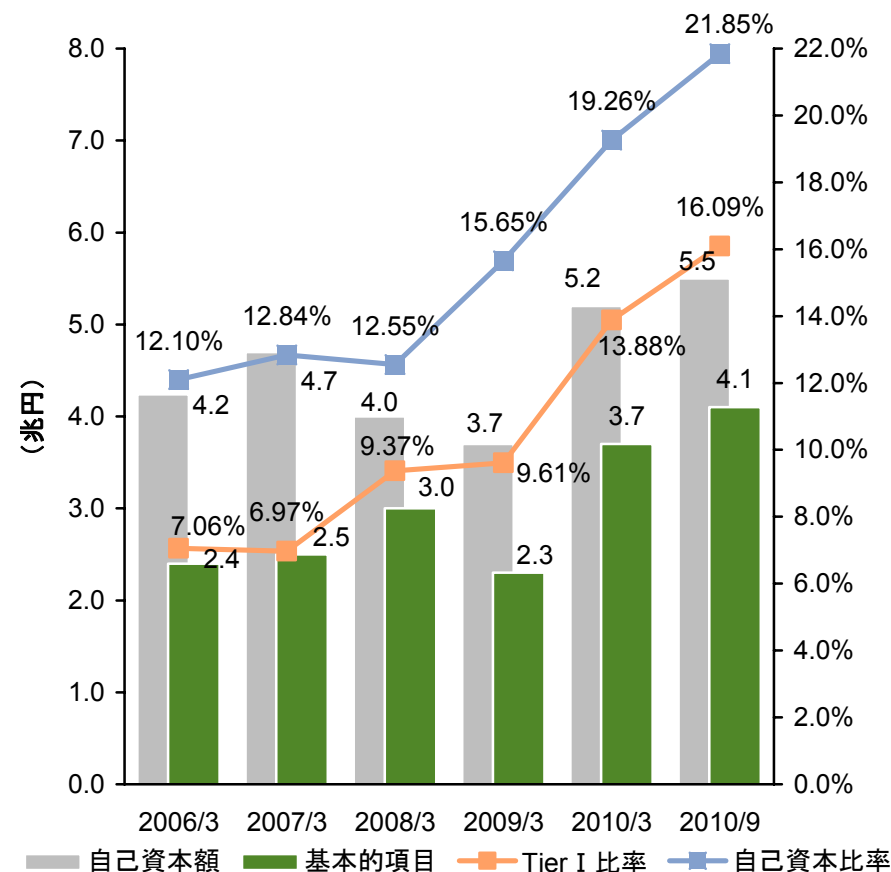
～ 自己資本比率は健全な水準を維持 ～

■ 自己資本比率, Tier I比率は各々21.85%, 16.09%。高水準の自己資本基盤を確保

自己資本の内訳(単位:億円)

	2010年 3月末	2010年 9月末	増減
1 基本的項目(Tier I)	37,908	41,008	3,099
2 うち資本金および資本剰余金	34,509	34,509	-
3 うち利益剰余金	8,194	9,029	834
4 うちその他有価証券評価差額金	-4,066	-2,069	1,997
5 補完的項目(Tier II)	17,745	17,588	-156
6 うち永久劣後債務	14,860	14,860	-
7 うち期限付劣後債務および期限付優先出資	2,658	2,501	-156
8 控除項目	3,048	2,920	-128
9 自己資本額	52,605	55,676	3,071
10 リスク・アセット	273,075	254,711	-18,364
11 自己資本比率(国際統一基準)	19.26%	21.85%	2.59%
12 基本的項目(Tier I)比率	13.88%	16.09%	2.21%

自己資本比率の推移

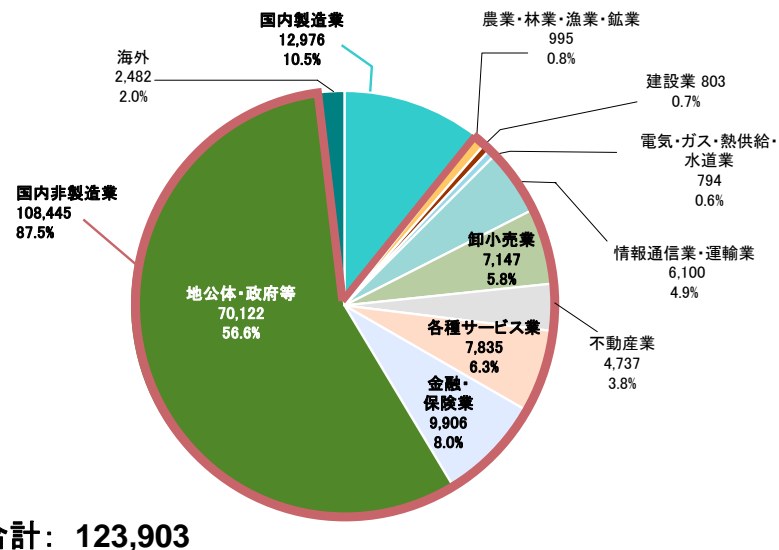


注: 2010年9月末現在, 単体ベース
出所: 農林中央金庫

～ 貸出資産ポートフォリオの概要 ～

■ 当金庫の特性を踏まえた、全体として健全性の高い貸出ポートフォリオを維持

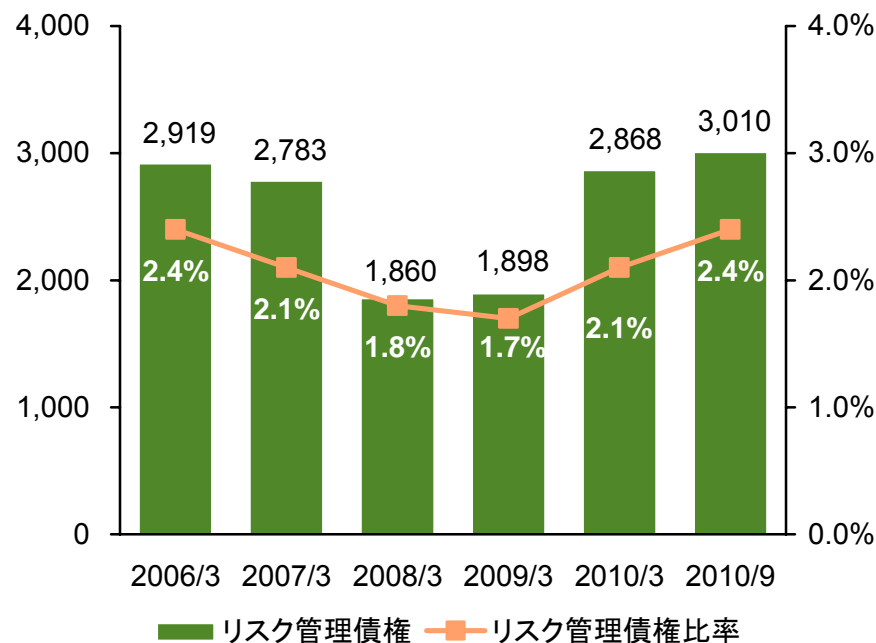
業種別貸出金残高(単位:億円)



貸出先別貸出金残高(単位:億円)

項目	残高	%
1 系統団体	4,961	4%
2 関連産業法人	31,440	25%
3 その他(地公体・政府・金融機関ほか)	87,501	71%
4 合計	123,903	100%

リスク管理債権の推移(単位:億円)



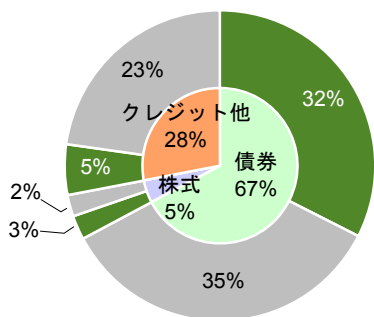
注: 2010年9月末現在, 単体ベース
出所: 農林中央金庫

～ 市場運用資産ポートフォリオの内訳 ～

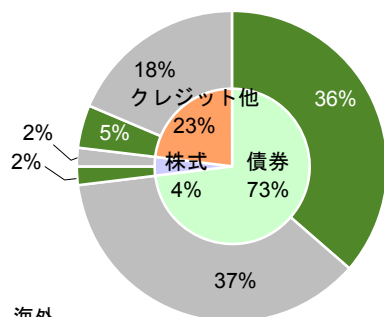
- 国際分散投資のコンセプトのもと、債券、株式、クレジット資産等の主要アセットクラスについて、通貨・地域等のバランスを考慮しつつ最適なアセットミックスの構築を志向

市場運用資産のリスク別内訳

2010年3月末



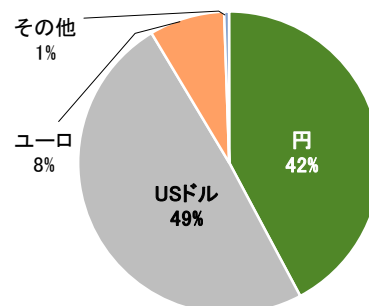
2010年9月末



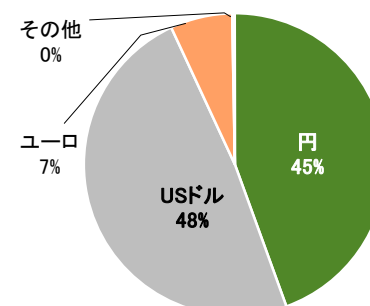
■ 国内 ■ 海外

市場運用資産の通貨別内訳

2010年3月末

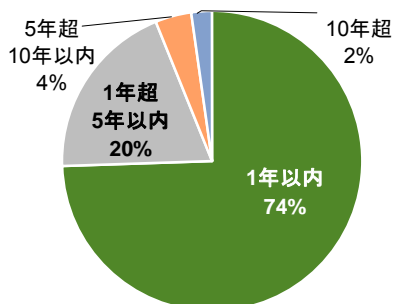


2010年9月末

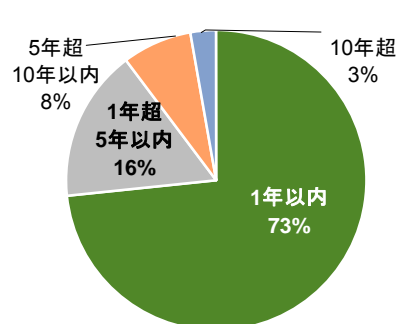


市場運用資産(満期がないものを除く)の金利更改満期別内訳

2010年3月末

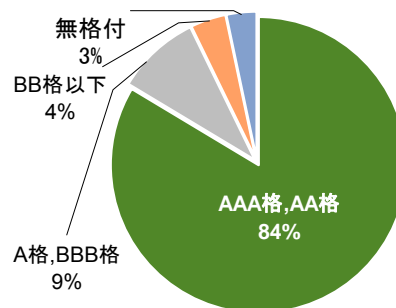


2010年9月末

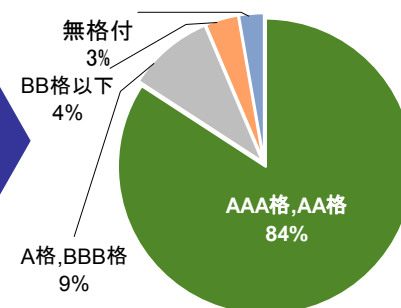


市場運用部門総資産の格付別内訳

2010年3月末



2010年9月末



注: 2010年9月末現在, 単体ベース
出所: 農林中央金庫

～ 証券化エクスポージャー(注1)(注2) ～

■ 証券化商品のポートフォリオは①高格付の、②一次証券化商品(資産担保証券(ABS))が中心

1 商品区分別エクスポージャー

(単位: 億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB+以下	合計	
						3月末比	損失額(注5)
1 資産担保証券(ABS)	20,006	3	400	45	8	20,464	-4,849
2 住宅ローン担保証券(RMBS)(注3)	3,935	295	157	89	408	4,887	-606
3 商業用モーゲージ担保証券(CMBS)	815	1,020	801	729	565	3,932	-892
4 債務担保証券(CDO)	1,882	6,115	3,208	1,371	2,381	14,959	-3,040
5 ローン債務担保(CLO)	1,704	5,568	2,990	967	1,736	12,967	-2,718
6 証券化商品担保(注4)	171	410	177	368	610	1,740	-284
7 債券担保(CBO)他	6	136	40	34	33	251	-37
8 その他	-	-	-	1	752	754	-183
9 合計	26,639	7,435	4,568	2,237	4,116	44,997	-9,573

2 商品区分別評価差額・損失額

(単位: 億円)

	AAA	AA	A	BBB	BB+以下	合計		損失額(注5)
						3月末比	損失額(注5)	
10 資産担保証券(ABS)	-219	-0	-18	0	-1	-239	103	-
11 住宅ローン担保証券(RMBS)(注3)	13	7	33	5	-19	40	88	-14
12 商業用モーゲージ担保証券(CMBS)	-145	-57	-52	-84	-49	-388	63	-15
13 債務担保証券(CDO)	-36	-293	-337	-155	20	-801	252	-31
14 ローン債務担保(CLO)	-34	-274	-346	-122	-33	-810	189	106
15 証券化商品担保(注4)	-2	-7	-12	-56	54	-24	53	-140
16 債券担保(CBO)他	-0	-12	21	23	-	32	9	2
17 その他	-	-	-	-	-	-	-	-
18 合計	-387	-343	-374	-234	-49	-1,389	507	-61

3 通貨別エクスポージャー

(単位: 億円)

	エクスポージャー	3月末比	評価差額		損失額(注5)
			3月末比	損失額(注5)	
1 米ドル	31,307	-7,702	-794	384	-103
2 ユーロ	6,384	-780	-417	101	56
3 英ポンド	344	-94	-14	4	-
4 円	6,961	-996	-163	16	-14
5 合計	44,997	-9,573	-1,389	507	-61

注1: 証券化商品の定義は、バーゼルⅡにおける証券化エクスポージャーを基本とした内部定義による。サブプライム関連商品を含む。

注2: 証券化エクスポージャーは損失額、評価損失の反映後。一部のCMBSにおいてバーゼルⅢにおける特定貸付債権に含まれるエクスポージャーが証券化エクスポージャーと別に1,159億円あり(評価差額▲10億円、損失額▲7億円)。

注3: サブプライムRMBSを含む。米国住宅金融公社関連のモーゲージ担保証券を含まない。

注4: ABS-CDO, CDO of CDO's等の2次、3次証券化商品。サブプライムRMBSを含むABS-CDO, CDO of CDO'sを含む。

注5: 損失額は減損額と複合金融商品の当年度損益に含まれる評価損益との合計。

注: 2010年9月末現在、単体ベース

出所: 農林中央金庫

～ サブプライム関連商品, モノライン向け与信, レバレッジドローン等 ～

■ サブプライム関連商品へのエクスポージャーは918億円(損失額14億円, 評価差額146億円の反映後)

1. サブプライム関連商品への投資の状況(注1)(単位:億円)

(1) サブプライム住宅ローン担保証券(サブプライムRMBS:一次証券化商品)(注2)

	エクスポージャー	評価差額		損失額	
		3月末比	3月末比		
1 AAA	208	-101	41	-11	-
2 AA	31	-80	10	21	-
3 A	94	67	33	28	-
4 BBB	11	-25	4	16	-
5 BB+以下	408	15	-19	7	-14
6 合計	753	-124	71	62	-14

(2) サブプライムRMBSを含むABS-CDO(二次証券化商品)(注3)(注4)

	エクスポージャー	評価差額		損失額	
		3月末比	3月末比		
7 AAA	-	-	-	-	-
8 AA	-	-	-	-	-
9 A	-	-	-	-	-
10 BBB	66	-40	28	8	-
11 BB+以下	42	0	40	23	-
12 合計	109	-40	69	31	-

(3) サブプライムRMBSを含むCDO of CDO's(三次証券化商品)(注5)(注6)

	エクスポージャー	評価差額		損失額	
		3月末比	3月末比		
13 AAA	-	-	-	-	-
14 AA	-	-	-	-	-
15 A	-	-	-	-	-
16 BBB	-	-	-	-	-
17 BB+以下	55	-5	6	6	-
18 合計	55	-5	6	6	-

(4) サブプライム関連商品計 ((1)～(3)の合計)

	エクスポージャー	評価差額		損失額	
		3月末比	3月末比		
19 AAA	208	-101	41	-11	-
20 AA	31	-80	10	21	-
21 A	94	67	33	28	-
22 BBB	78	-65	32	25	-
23 BB+以下	506	10	27	36	-14
24 合計	918	-169	146	99	-14

注1: サブプライム関連の融資は行っていない。

注2: ビンテージ別比率は①2004年以前99%, ②2005-2006年0%, ③2007年以降0%。

注3: ビンテージ別比率は①2004年以前48%, ②2005-2006年44%, ③2007年以降7%。

注4: SIVが発行するキャピタルノートを含む。

注5: ビンテージ別比率は①2004年以前100%, ②2005-2006年0%, ③2007年以降0%。

注6: サブプライムRMBSを一部でも含むCDO of CDO's。但しサブプライムRMBSの含有率は僅少。

2. モノライン関連商品への投資の状況(注7)(単位:億円)

	エクスポージャー	評価差額		
		3月末比	3月末比	
1 モノラインによる保証付金融商品(注8)	697	-879	-124	157
2 証券業務におけるモノライン利用	-	-	-	-
3 合計	697	-879	-124	157

3. レバレッジドローンへの投資の状況(注9)(単位:億円)

	エクスポージャー	評価差額	
		3月末比	3月末比
4 国内レバレッジドローン	281	-33	-
5 海外レバレッジドローン	926	-115	-
6 合計	1,207	-148	-

4. トレーディング等の状況

当金庫はABCP, SIV, レバレッジドローンの組成, 引受, トレーディングを行っておらず, 関連する商品のトレーディング勘定での保有や連結非対象としているオフバランス取引は行っていない。ただし顧客企業の資産流動化を目的としたSPCを1件スポンサーしている(与信残高760億円)。

5. 米国住宅金融公社関連債券への投資の状況(注10)(単位:億円)

	エクスポージャー	評価差額		
		3月末比	3月末比	
7 エージェンシー・モーゲージ債	40,690	12,010	1,058	231
8 エージェンシー債	21,151	2,063	-247	-190
9 合計	61,842	14,073	810	41

【参考】

・ファンド投資内のサブプライム関連商品の状況
サブプライム関連商品を主な投資対象とするファンドの保有はないが, 当金庫が運用を委託しているファンドにおいて, サブプライムRMBS(一次証券化商品)が含まれるものがある。(*)
ファンド内のサブプライムRMBS残高342億円, 評価損益▲53億円。

(*)ファンド内個別資産が把握できるファンドにおける当金庫調査ベース

注7: モノラインによる保証付金融商品と別にモノラインのCDS等を含む証券化商品(CDO)を保有。

注8: 米国CLO, 米国ABS等で裏付資産の保証前格付けはいずれも投資適格相当以上を確保。また担保証券商品にサブプライム関連商品はない。

注9: レバレッジドバイアウトを主な資金使途とする貸出で内部管理の定義による。貸倒引当金は122億円。

注10: この他に米国政府全額出資の米政府系機関である政府抵当金庫(ジニーメイ)保証付の住宅ローン担保証券の保有額は17,874億円。

注: 2010年9月末現在, 単体ベース

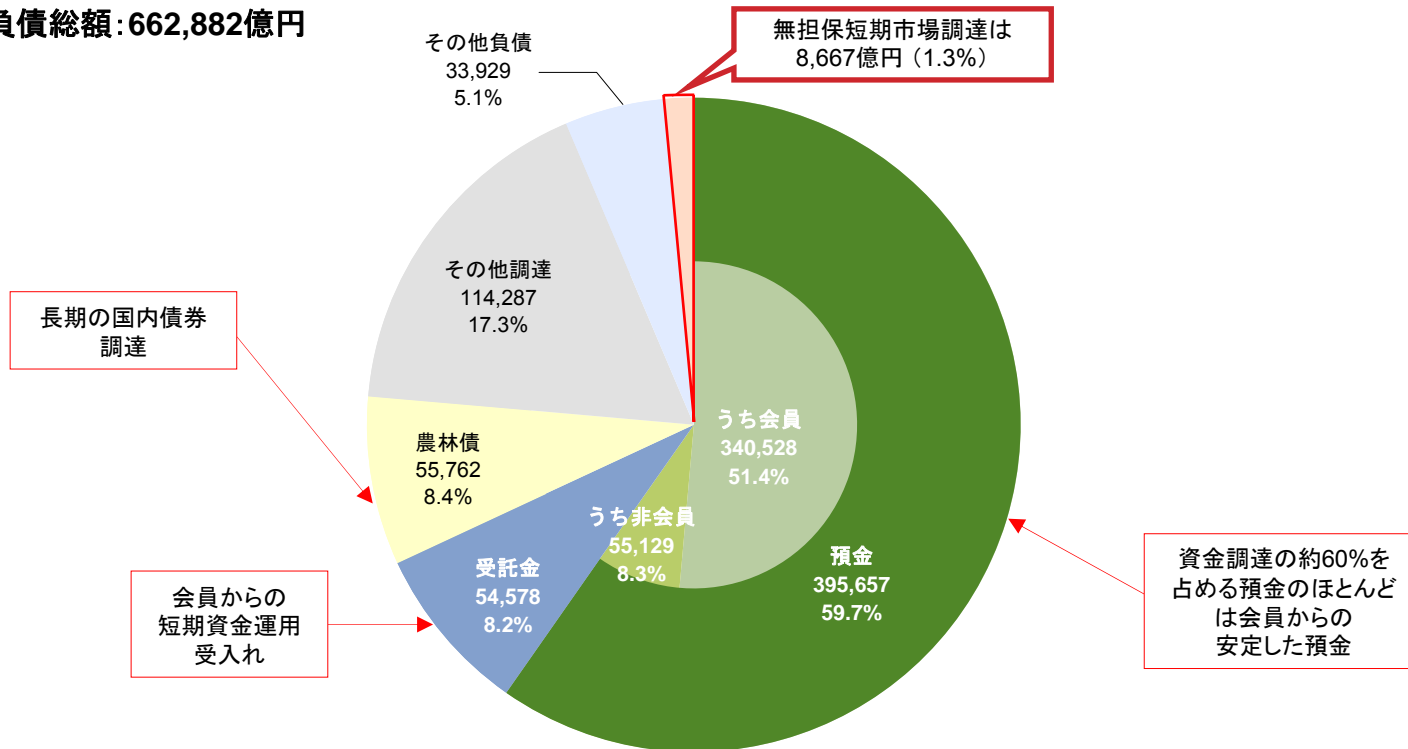
出所: 農林中央金庫

～会員からの預金等により安定した資金調達を実現～

- 負債総額のうち、無担保短期市場調達は1.3%と極めて限定的

負債の種類別内訳

負債総額: 662,882億円



注1: その他調達は有担保調達である売現先勘定・債券貸借取引受入担保金等、借入金(有担保、劣後ローン)を、その他負債は支払承諾、引当金等を、また無担保短期市場調達は特定取引負債、譲渡性預金、および無担保コールマネーを含む。

注2: 2010年9月末現在 単体ベース

出所: 農林中央金庫

～ 単体ベース同様の利益水準を確保 ～

■ 経常利益1,041億円, 半期純利益829億円

(単位: 億円)	2009年度 半期	2010年度 半期	増減額	増減率
1 経常収益	7,411	5,781	-1,629	-21.9%
2 うち資金運用収益	3,832	3,640	-192	-5.0%
3 経常費用	6,299	4,739	-1,559	-24.7%
4 うち資金調達費用	3,557	2,816	-741	-20.8%
5 うち事業管理費	600	542	-58	-9.7%
6 経常利益	1,111	1,041	-70	-6.2%
7 特別利益	8	130	122	1,432.9%
8 特別損失	9	3	-5	-58.8%
9 税金等調整前半期純利益	1,110	1,168	57	5.2%
10 半期純利益	600	829	229	38.1%

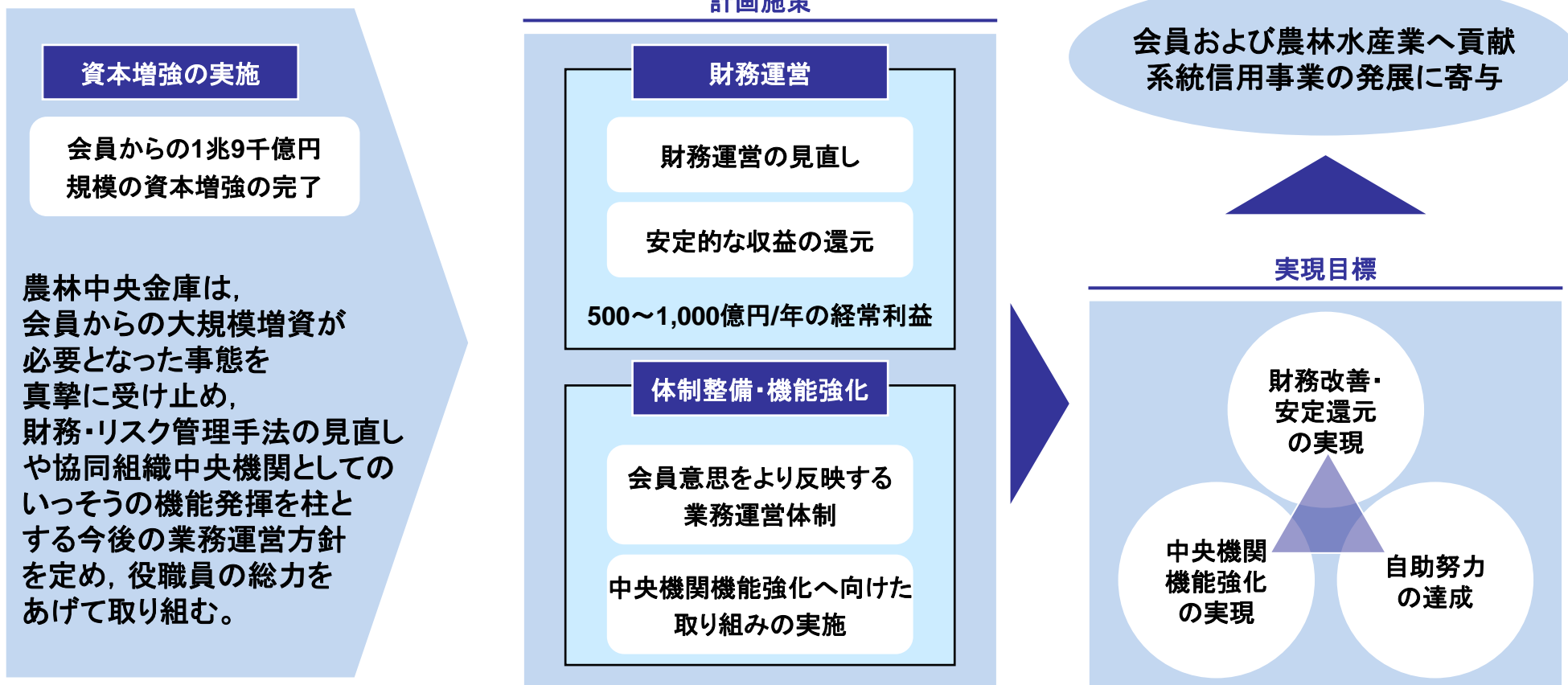
(単位: 億円)	2009年度 年度末	2010年度 半期末	増減額	増減率
(資産の部)				
1 貸出金	130,976	124,709	-6,266	-4.7%
2 有価証券	439,947	460,450	20,502	4.6%
3 金銭の信託	65,566	79,992	14,426	22.0%
4 現金預け金	21,953	10,205	-11,747	-53.5%
5 その他	28,323	32,275	3,951	13.9%
6 資産の部合計	686,767	707,633	20,866	3.0%
(負債の部)				
7 預金	391,016	395,585	4,569	1.1%
8 譲渡性預金	7,027	6,723	-304	-4.3%
9 農林債	56,057	55,697	-360	-0.6%
10 借入金	20,433	18,054	-2,379	-11.6%
11 受託金	42,771	54,578	11,807	27.6%
12 その他	129,899	134,691	4,791	3.6%
13 負債の部合計	647,206	665,331	18,124	2.8%
(純資産の部)				
14 資本金	34,259	34,259	-	-
15 資本剰余金	250	250	-	-
16 利益剰余金	8,374	9,204	829	9.9%
17 その他	-3,322	-1,411	1,911	-
18 純資産の部合計	39,560	42,302	2,741	6.9%

注: 2010年9月末現在
出所: 農林中央金庫

參考資料

～経営安定化計画の概要～

- 保守的な財務運営による安定的な収益の還元とともに、協同組合中央機関として農林水産業発展のための機能発揮を行う



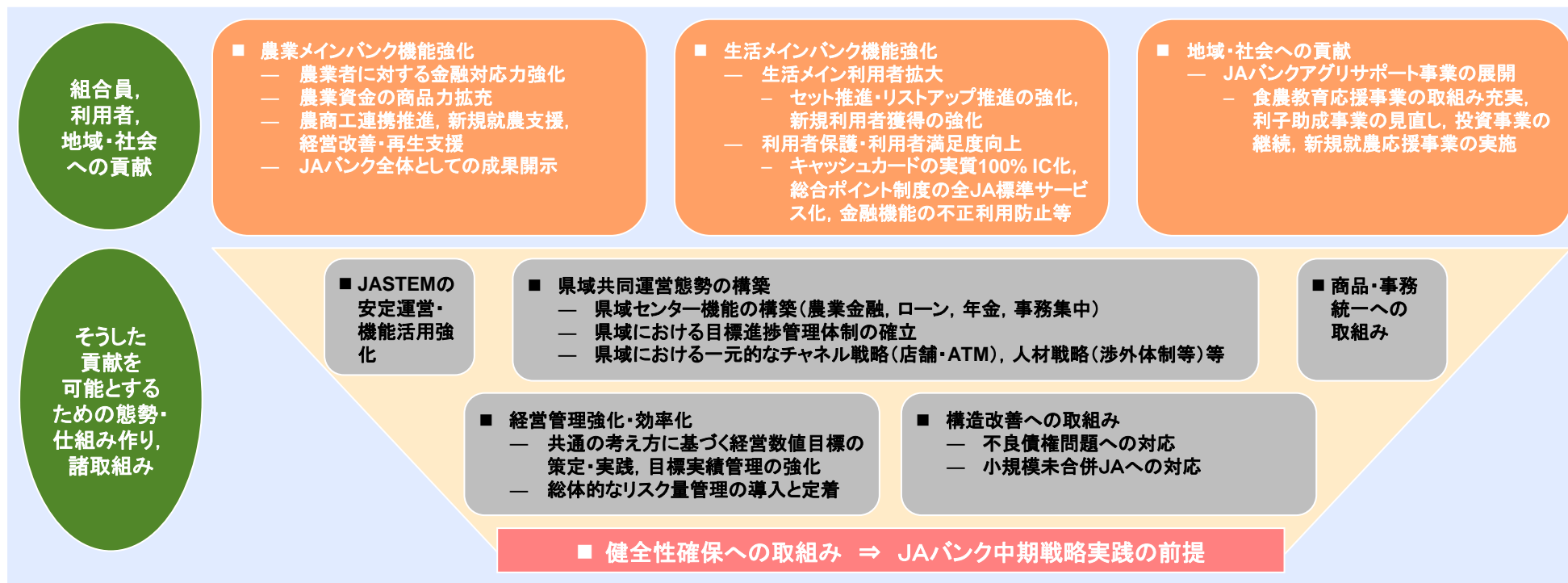
～ 主な系統組織の仕組み ～



~ (基本目標)「農業とくらしに貢献し、選ばれ、成長し続けるJAバンク」の実現 ~

■ JAバンクでは、基本目標の実現に向け、JA・信連・農林中金が一体となって、JAバンク中期戦略(平成22~24年度)を実践していきます

■ JAバンク中期戦略(平成22~24年度)における具体的実践事項(骨子)



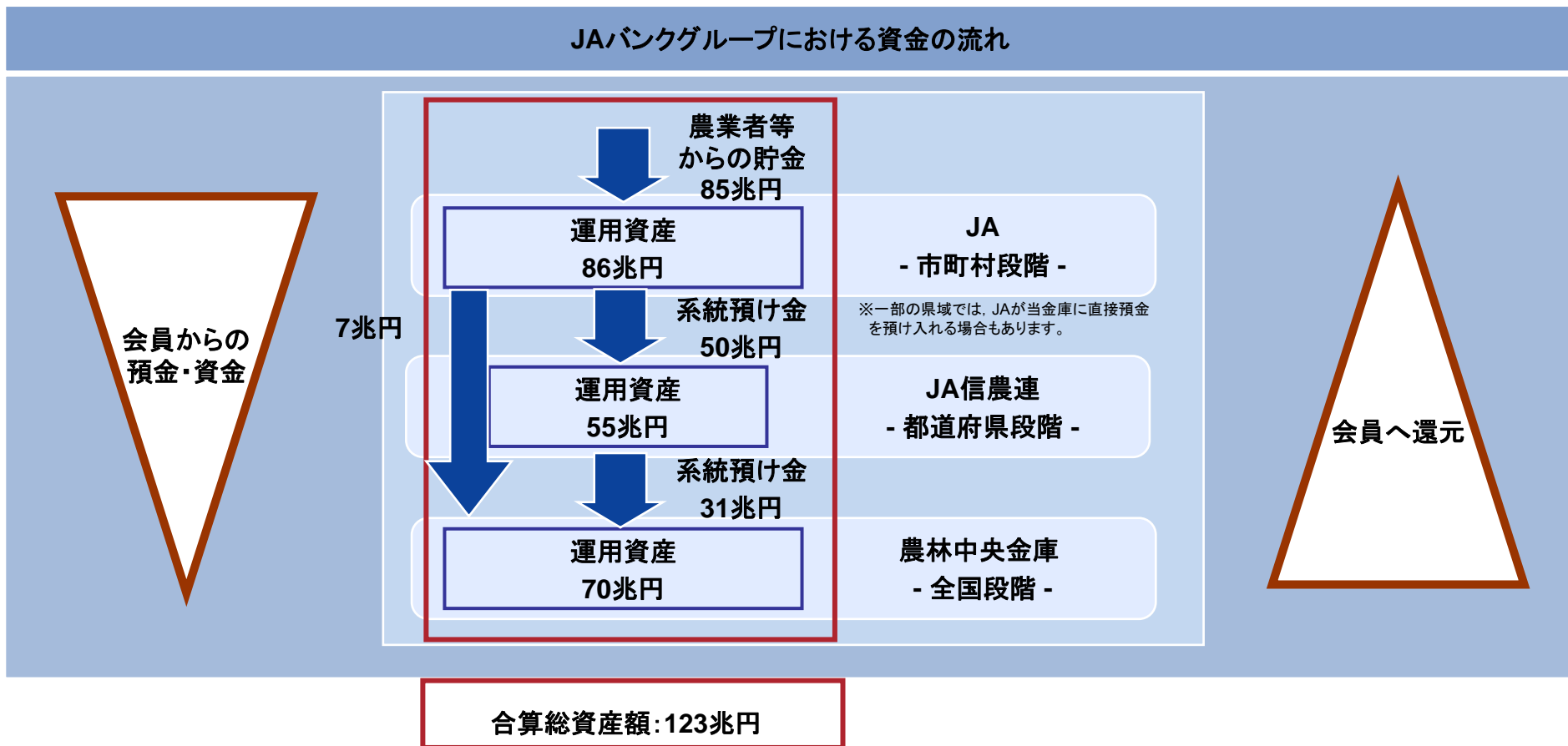
■ 平成24年度に目指す姿

- 農業法人、大規模農業者との関係強化、利用者数拡大
- 農家組合員、生活利用者の満足度向上
- 次世代、次々世代の利用者数拡大
- 生活利用者数拡大、地域シェア向上、利用拡充
- JA・JAバンクに対する地域の評価の向上

～ JAバンクグループにおける資金の流れ ～

■ JAバンクグループ = JA(市町村段階) + JA信農連(都道府県段階) + 農林中央金庫(全国段階)

JAバンクグループにおける資金の流れ



注：2010年9月末現在
 合算総資産額＝運用資産(86兆円+55兆円+70兆円)－預け金(50兆円+7兆円+31兆円)。

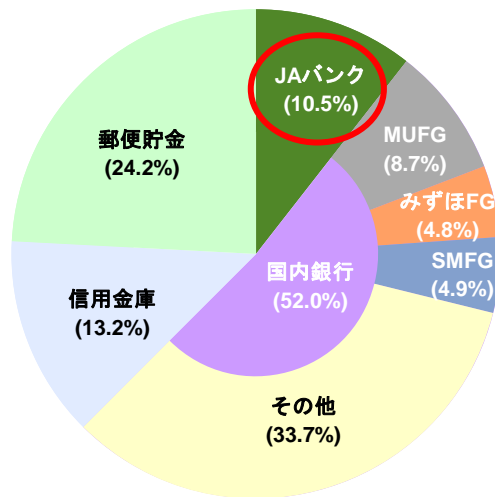
出所：農林中央金庫

～JA貯金の安定的な推移～

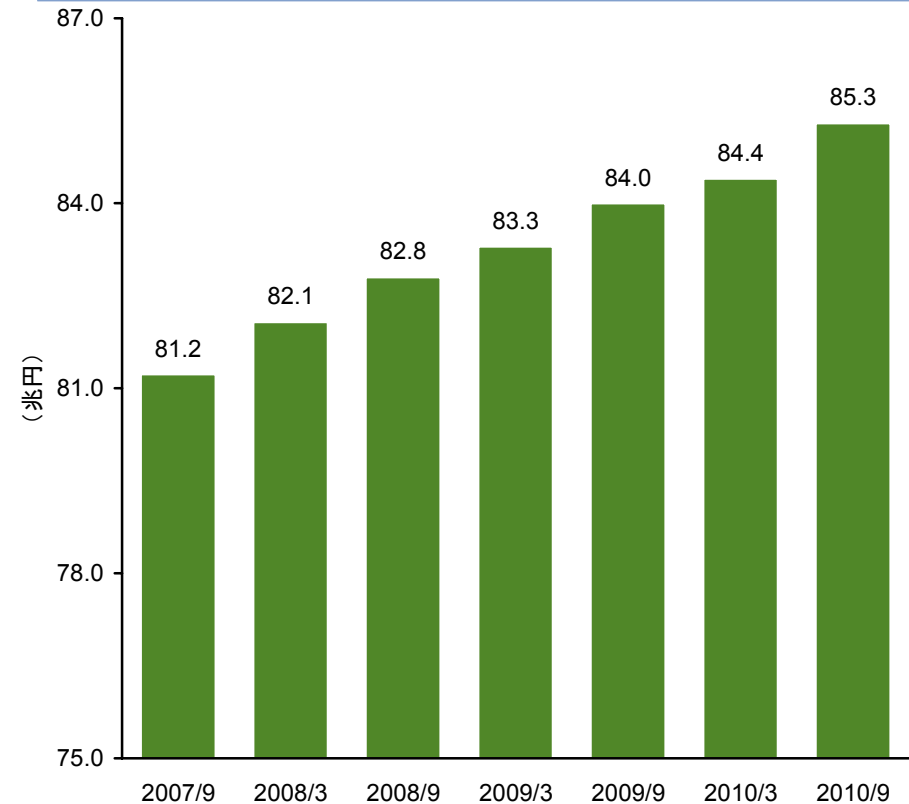
- JAの店舗数は8,707 (2010年3月末)に達し、強力な営業基盤とネットワークを有する(2010年4月1日時点のJA数は719)
- JA貯金残高は長期間に亘り、安定的に伸長している

預貯金残高(個人)

個人預貯金残高合計: 727兆円



JA貯金残高の推移



注: 2010年3月末時点。日本銀行資料、全国銀行協会資料、信金中金総合研究所資料、日本郵政公社のディスクロージャー資料、各行の決算説明資料をもとに農林中央金庫作成。
JAバンク、国内銀行及び信用金庫の残高は個人預貯金、郵便貯金は全貯金額

注: JA貯金残高は個人貯金、個人貯金以外(公金・企業等)の合計
出所: 農林中央金庫

～設備・運転資金など幅広い資金需要への対応～

- 農業者の様々なニーズに対応した資金種類を準備することにより、農業を金融面からサポート

主要なプロパー農業資金の残高推移 (単位:億円)

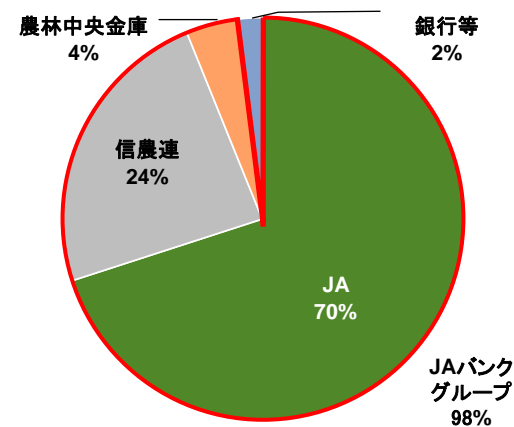
残高実績	2009年 3月期		2010年 3月期	
	9月	3月	9月	3月
	アグリマイティ資金	1,156	1,065	1,094
農機ハウスローン	845	1,032	940	971
農林水産環境ビジネスローン	131	121	110	345

アグリマイティ資金: 農業関係の運転・設備資金
 農機ハウスローン: 農業生産にかかる設備資金
 農林水産環境ビジネスローン: 生産および加工・流通販売等にかかる設備資金・運転資金

出所: 農林中央金庫

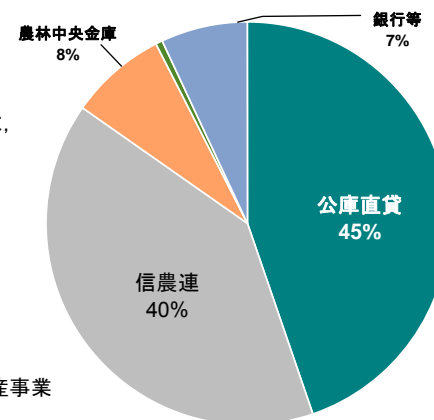
- 主要な制度資金である農業近代化資金, 日本政策金融公庫 農業資金の取扱いでは, JAバンクはトップシェア

農業近代化資金 融資残高シェア



2009年12月末現在
出所: 農林水産省

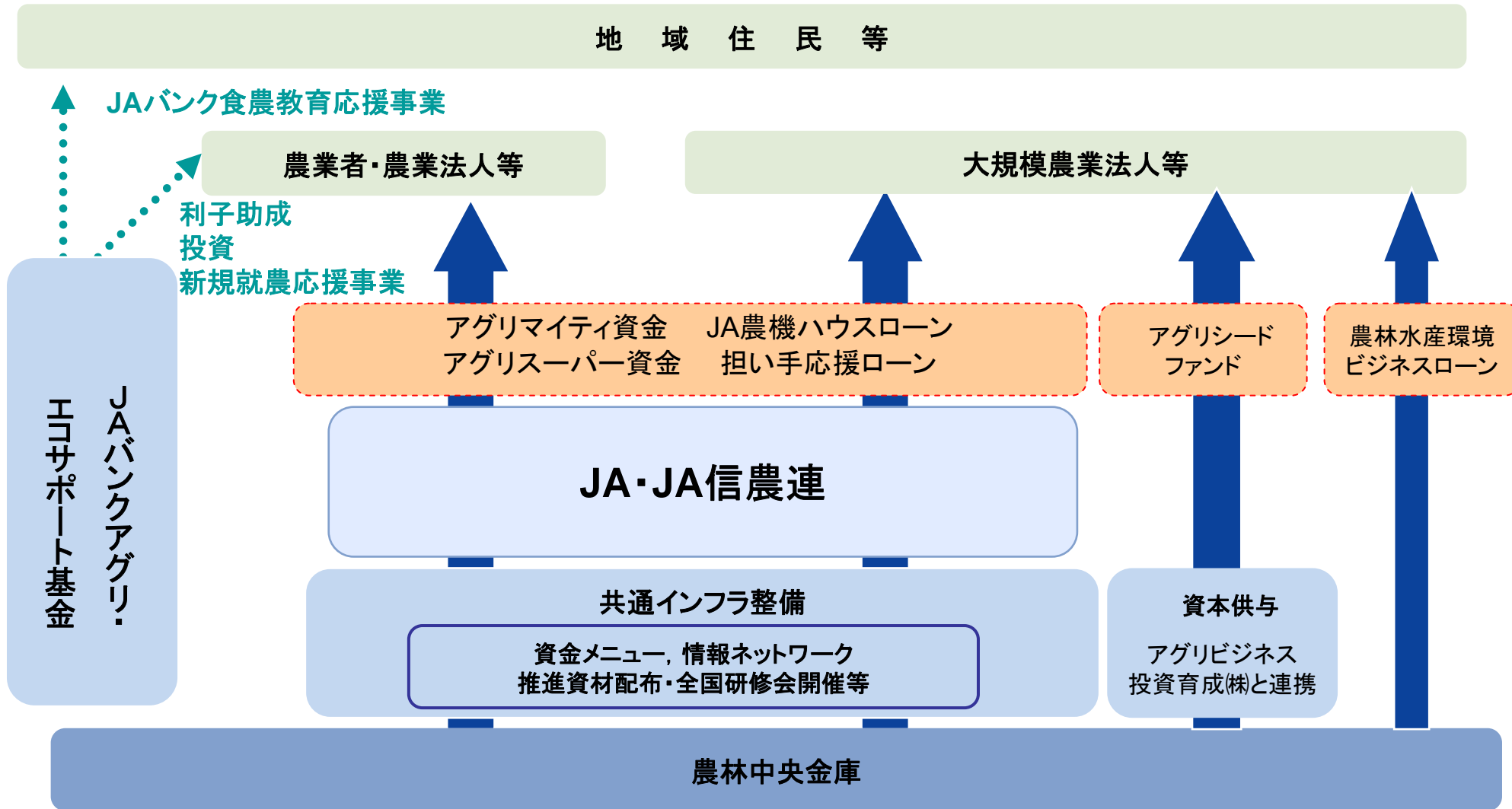
日本政策金融公庫 農業資金取扱残高シェア



信農連, 農林中金が取扱う日本政策金融公庫の受託貸付は, 主にJAを窓口としています。

2010年3月末現在
出所: 日本政策金融公庫 農林水産事業 「業務統計年報」

～ JAバンクグループが一体となった農業担い手支援 ～



アグリマイティ資金: 運転・設備資金 JA農機ハウスローン: 生産設備資金 農林水産環境ビジネスローン: 生産および加工・流通・販売等にかかる設備・運転資金等
アグリスーパー資金: 水田・畑作経営所得安定対策対象者向け運転資金 担い手応援ローン: JAで行う税務対応支援等を受けている農業者向け運転資金

～ JAバンクグループとしての機能提供～

- 「農業メインバンク」として機能発揮のため、JA・JA信農連・農林中央金庫が一体となって各種取組みを実施。農林中央金庫は、インフラ提供等によりJA・JA信農連の取組みをサポート。
- 地域・社会への貢献として、JAバンクアグリ・エコサポート基金を通じ、「JAバンクアグリサポート事業」を展開

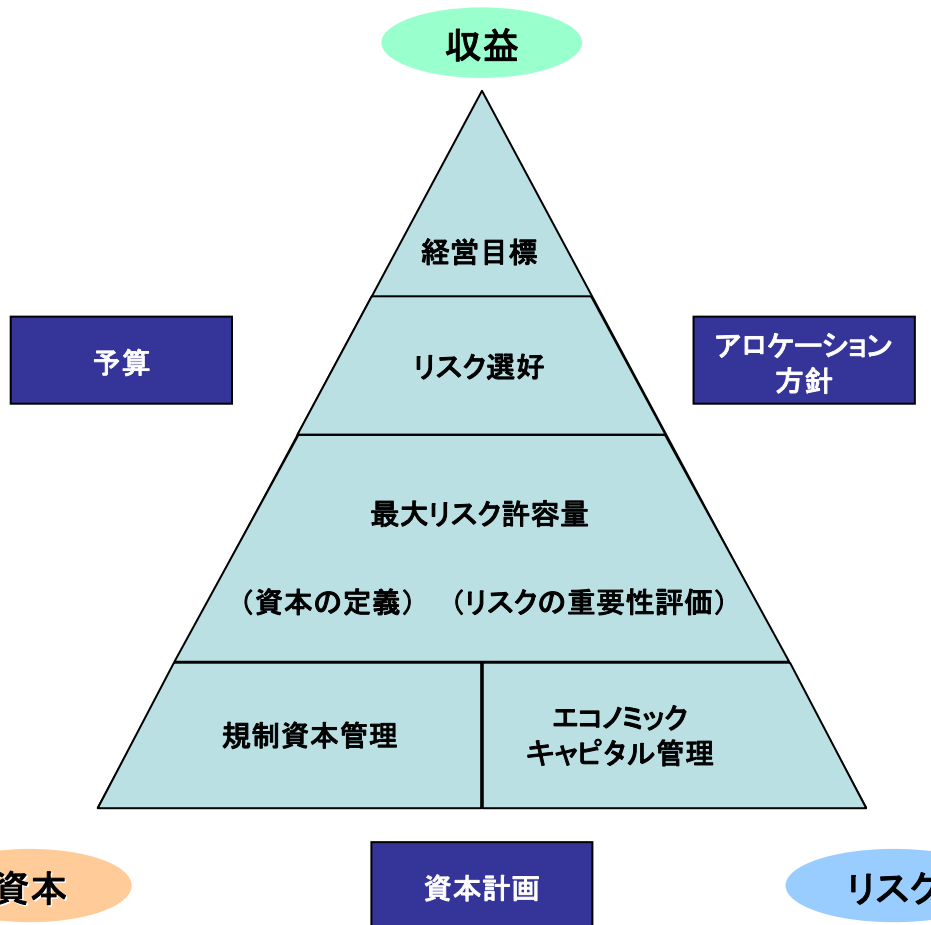
JAバンクの取組み		農林中金のサポート・取組内容
農業資金の提供を始めとする支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様化する農業者の幅広い資金需要に応じた各種農業資金・制度資金の適切な提供 ■ 営農指導・経済事業部門と連携した農業者への訪問活動、相談対応、資金提案 ■ アグリビジネス投資育成(株)による出資や、JA三井リース(株)によるリースなど、総合的な金融サービスの提供 ■ 6次産業化に向けた農商工連携等の推進 ■ 営農指導・経済事業部門と連携した戸別所得補償制度の制度説明や申請手続支援等の農業者サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業融資商品(全国要綱)の企画・推進, JA向け推進資材の提供 ○ JA・JA信農連と連携した農業法人への訪問, 相談対応, 資金提供 ○ 全国研修会の実施・県域研修会資材の提供などの人材育成支援 ・担い手金融リーダー全国大会開催(2010年1月) ○ 全国連等と連携した農業担い手支援の取組み ・JAグループ全国連担い手対応連絡協議会(全中, 全農, 全共連)によるJA事業間連携強化等への取組み ○ 農業法人育成のための資本供与の枠組み整備(アグリシードファンド, 2010年4月) ○ 6次産業化に向けた農商工連携等への取組み ・JAグループ国産農畜産物商談会の開催(全国, 2010年3月) ・地域商談会の開催(北陸, 2010年10月) ・海外商談会への参加(香港, 2010年9月) ・生産者・系統団体と商工業者とのビジネスマッチング ○ JA・JA信農連と連携した相談窓口設置など農業者の金融円滑化に向けた各種対策・支援
農業者の金融円滑化に向けた各種対策	<ul style="list-style-type: none"> ■ 疫病・災害などの被災農業者支援 ・相談窓口設置, 災害対策資金, 利子助成, 償還条件緩和等 ■ 農産物の価格低迷や農業生産資材の価格高騰などにかかる農業者支援 ■ 経営不振農業者の経営改善支援 	

JAバンクアグリサポート事業の取組状況

食農教育 応援事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食農教育等をテーマとしたオリジナル教材を21千校の小学校に贈呈 ■ 全国のJA等の食農教育等の取組みに助成実施 	投資事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業振興, 環境貢献等に取り組む企業経営体に, アグリ・エコファンドを通じ資本提供・育成支援を実施 ■ 2010年9月末現在(累計) 19社・886百万円
新規就農 応援事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規就農希望者(研修生)を育成するための研修を行う農家等に助成【22年度からの新規事業】 	利子助成 事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ JAが融資する農業資金に対し利子助成を実施 ■ 2009年度分助成金48千件, 838百万円を交付

～ 自己資本充実度評価プロセス～

- パーゼルⅡ 第二の柱を踏まえた自己資本の充実度評価プロセス (Internal Capital Adequacy Assessment Process=ICAAP)



1. リスク選好

- 経営の健全性を維持しつつ、会員等に対して安定的な還元を行うことが、最も重要な役割であることを確認
- 経営戦略遂行のために必要なリスクの種類及び規模の認識
 - 国際分散投資を基本コンセプトとする安全・安定を重視したポートフォリオ運営
 - ストレス状況にも耐え得る自己資本の確保と十分な流動性の維持

2. 最大リスク許容量の設定

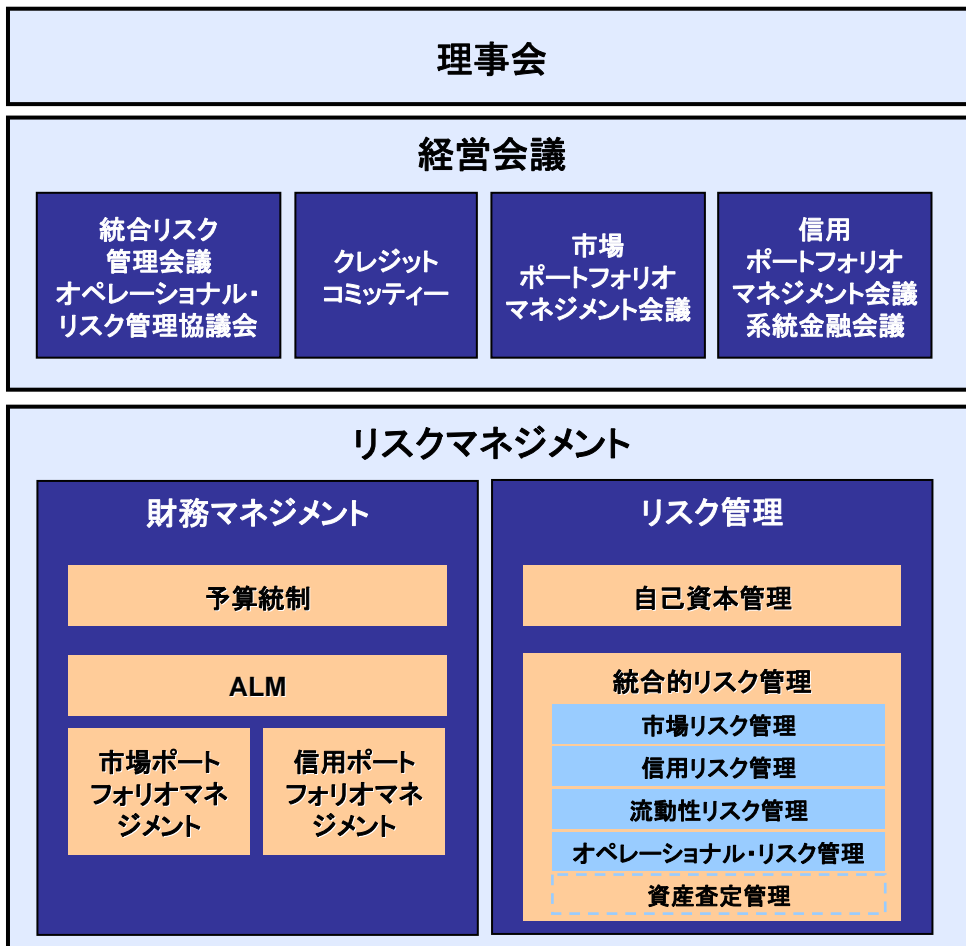
- 重要なリスクについて許容可能な最大値を設定
 - 重要なリスクの種類: 市場リスク, 信用リスク, オペレーショナル・リスク
 - これらのリスクをカバーする資本と最大リスク許容量の定義

3. リスク選好と最大リスク許容量との整合性を確認

- 規制資本管理およびエコノミックキャピタル管理において、チェックポイント設定やストレステストの実施などを通じ、リスク選好に基づき定量的に認識されるリスク量が、最大リスク許容量として表される資本量を超えておらず、また超えるおそれがない状況にあることを確認

～ リスク管理体制の概要 ～

- エコノミックキャピタル管理を中心的機能として、リスクを統合的に管理していく仕組みとしての「統合リスク管理」を実践



1. 理事会

- 中期経営計画、業務計画、エコノミック・キャピタル管理および運営、予算といった経営目標を決定。また、自己資本充実度評価プロセス(ICAAP)を実施
- 内部監査及び外部監査からのフィードバックをもとに、リスク管理体制の状況を把握

2. 経営会議

- 統合リスク管理会議において、エコノミック・キャピタルや規制資本管理、理論価格の取扱いにかかる重要事項を協議・決定
- そのもとで、市場・信用ポートフォリオマネジメント会議等において具体的なポートフォリオ運営方針を決定

3. リスクマネジメント

- 統合的リスク管理として、市場リスク、信用リスク、流動性リスク、オペレーショナルリスクを個別に管理する部署と、それらを統合的に管理する部署を設置して、それぞれの役割と責任を明確化
- 統合的リスク管理と一体となった形で、経済・金融環境の変化や市場の変動のなかで、リスク、収益、資本のバランスを慎重に見極め、健全性と収益力に配慮した柔軟な財務マネジメントを実現

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等についての検証を行っておらず、また、これを保証するものではありません。当金庫は、本プレゼンテーション資料に記載されている情報の利用から生じる損害が直接的、また、間接的であるかに関わらず、何ら責任を負いません。
- 本プレゼンテーション資料には、当金庫に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当金庫が現在入手している情報に基づき、本プレゼンテーション資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提(仮定)の下になされています。これらの記述または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、または将来実現しない可能性があります。
- 本プレゼンテーション資料は、有価証券の販売のための勧誘を構成するものではありません。